

前期博士課程

臨床心理学コース

【開講年度・学期】 2018年度・前期
【科目名】 発達障がい支援特論
【英語表記】 Advanced Studies of Support for Developmental disabilities
【科目ナンバリング】 HGCPL6501
【担当教員】 三船 直子
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

発達障害のある児・者への臨床心理的支援について論じ、考察する。

発達障がい支援は障がいへの理解から支援、そして共生へと進展を遂げている。自閉症スペクトラム、AD/HD、LDについて、その特性の理解、その支援のこころ構え、実際について知るとともに、共に生きるという観点について検討していきたい。

【授業の到達目標】

発達障がい(自閉症)の歴史的考察、ライフサイクルにおける発達障がい特性、発達障がいの理解、その困難と支援、共生についての基礎的な知識を身につける。

【授業内容・授業計画】

事例や症例の文献を用いながら障がいへの理解、心理臨床支援、共生について、事例を交えディスカッションを交え検討していく。また以下の講義予定は授業の進行により、変更することもある。

オリエンテーション	1
発達障がいの理解をめぐる歴史的変遷と支援の小史① イギリス・アメリカ	2
発達障がいの理解をめぐる概念の変遷と支援の小史② 日本	3
自閉性スペクトラムへの理解	4
乳幼児期・就園前の ASD (AD/HD, LD) の理解と支援 1	5
2	6
学童期初期の ASD (AD/HD, LD) の理解と支援 1	7
2	8
思春期の ASD (AD/HD, LD) の理解と支援 1	9
2	10
青年期の ASD (ASD AD/HD, LD) の理解と支援 1	11
2	12
第4の発達障がい、虐待への理解と支援	13
発達障害を有する精神疾患についての理解と支援まとめ	14
まとめ	15

【事前・事後学習の内容】

授業において事前・事後学習の課題を指示する。

【評価方法】

授業中に適宜レポートを課し、あわせて最終レポートにより評価する。

【教材】

テキスト 『自閉症スペクトラム』ウタ フリス

参考書籍 『自閉症スペクトラム』ローナ ウィング

『子どもの臨床アセスメント』S. I. グリーンスパン, N. T. グリーンスパン

『「関係」からみる乳幼児期の自閉症スペクトラム』小林隆児 他講義中に配布

【受講生へのコメント】

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択E群科目」

【開講年度・学期】 2018年度・前期
【科目名】 人格心理学特論<心理アセスメントに関する理論と実践>
【英語表記】 Advanced Personality Psychology
【科目ナンバリング】 HGCPL6503
【担当教員】 後藤 佳代子
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

人格の病理は、精神病、境界例、自己愛、心身症などの病的諸症状としてあらわになってくる。本講義ではこれらの心理的諸問題の背景にある人格形成のメカニズムについて文献講読を行う。

【授業の到達目標】

特に精神分析的立場からの人格理論を習得する。あわせて、人格の発達の要因、人格の理解、人格の変容にかかわる心理臨床的技法について理解を深める。

【授業内容・授業計画】

1. オリエンテーション
2. 乳幼児期の発達（0～1歳）
3. 乳幼児期の発達（1～3歳）
4. 乳幼児期の人格の発達と精神分析理論
5. 人格の発達と精神分析理論（自我心理学派）
6. 人格発達のための技法（自我心理学派）
7. 人格の発達と精神分析理論（対象関係論学派）
8. 人格発達のための技法（対象関係論学派）
9. 人格の発達と精神分析理論（中間学派）
10. 人格発達のための技法（中間学派）
11. 人格の発達と精神分析理論（自己心理学派）
12. 人格発達のための技法（自己心理学派）
13. 人格の発達と精神分析理論（間主観性論学派）
14. 人格発達のための技法（間主観性論学派）
15. まとめ

【事前・事後学習の内容】

各回ごとに指定する。

【評価方法】

平常点：文献購読発表と出席点
レポート：講義を踏まえたテーマでのレポート提出

【教材】

関連資料は講義の際に適宜配布
文献は講義の際に指定

【受講生へのコメント】

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心理的アセスメントに関する理論と実践」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択B群科目」

【開講年度・学期】 2018年度・前期
【科目名】 臨床心理学特論 I
【英語表記】 Advanced Clinical Psychology I
【科目ナンバリング】 HGCP16504
【担当教員】 三船 直子
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

臨床実践に寄与する臨床心理学の基礎理論の深化を目的とし、ケースフォーミュレーション、パーソナリティ診断と支援について学び、多面的なクライアント理解と合わせてカウンセラーをめざす者自身についての理解を深めること目的とする。

【授業の到達目標】

心理臨床における多面的なケースフォーミュレーションの基本理念の習得と心理支援を求める人への理解、支援の方法への基礎理論を習得する

【授業内容・授業計画】

学生は課された課題についてレジュメを作成し、発表、講義、ディスカッションを行う。
以下の講義予定は授業の進展により、変更することもある。

オリエンテーション	1
臨床心理学における見立てとは	2
ケースフォーミュレーションの意義と臨床心理支援 ①	3
②	4
ケースフォーミュレーションの実際 ① 変えられないものの理解・発達の理解	5
② 関係性・感情の理解	6
③ 同一化の理解	7
④ 防衛・転移 - 逆転移の理解	8
カウンセリングへの導入	9
ケースフォーミュレーション各論と各々の事例検討	10
パーソナリティの理解と心理臨床支援	11
パーソナリティ各論	12
病態水準とパーソナリティ障害	13
パーソナリティをめぐる事例検討 ①	14
② まとめ	15

【事前・事後学習の内容】

授業の中で指示する。

【評価方法】

出席と発表およびレポートによる評価

【教材】

『ケースの見方・考え方』ナンシー マックウィリアムズ 創元社
『パーソナリティの診断と治療』ナンシー マックウィリアムズ 創元社
なお、参考資料など、適宜配布

【受講生へのコメント】

なお本科目は以下の科目に対応するものである。
・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】 2018年度・後期
【科目名】 臨床心理学特論Ⅱ
【英語表記】 Advanced Clinical psychology Ⅱ
【科目ナンバリング】 HGCP16505
【担当教員】 篠田 美紀
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

臨床心理学的心理援助に必要な基礎理論や各種心理療法の具体的な技法、臨床心理アセスメントの実際、医療・教育をはじめとする心理臨床の各領域での実践など、心理臨床についての基礎的な包括的知識と各心理臨床領域における実践の実際について学ぶ。

【授業の到達目標】

臨床心理学的心理援助に関する基礎的、包括的知識を取得し、医療・教育をはじめとする各心理臨床領域における臨床実践に対応することができる基礎力を取得する。

【授業内容・授業計画】

1. 心理臨床の対象とアプローチ 臨床心理学とは何か？
 2. 心理臨床の領域
 3. 心理アセスメント とは何か？
 4. 心へのはたらきかけ ー理論と技法(1) 心理療法・カウンセリング
 5. 心へのはたらきかけ ー理論と技法(2) 認知療法・認知行動療法
 6. 心へのはたらきかけ ー理論と技法(3) 臨床動作法
 7. 心へのはたらきかけ ー理論と技法(4) 表現療法
 8. 心へのはたらきかけ ー理論と技法(5) 風景構成法
 9. 心へのはたらきかけ ー理論と技法(6) 箱庭療法
 10. 心へのはたらきかけ ー理論と技法(7) 遊戯療法
 11. 心へのはたらきかけ ー理論と技法(8) 家族療法
 12. 心理臨床の現場ー(1) 病院臨床
 13. 心理臨床の現場ー(2) 教育臨床
 14. 心理臨床の現場ー(3) 保育臨床
 15. 心理臨床の倫理
- 講義前半はビジュアル教材による。講義後半はディスカッションおよび事例検討を行う。

【事前・事後学習の内容】 各講義内で通知する。

【評価方法】 平常点：出席点（50%）
レポート：講義を踏まえたテーマでの最終レポート提出（50%）

【教材】 ビジュアル教材 《心理臨床を学ぶ》 医学映像教育センター
補助教材は各回ごとに配布する。

【受講生へのコメント】

本講義は心理臨床の基礎力を取得することを目標としています。各講義において、学習した内容をより深めるための書籍等 提示しますので、積極的に学習を深め、展開する姿勢で臨んでください。

なお本科目は以下の科目に対応するものである。
・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】 2018年度・後期
【科目名】 臨床心理学事例研究法<心理支援に関する理論と実践>
【英語表記】 Case Studies in Clinical Psychology
【科目ナンバリング】 HGCP57501
【担当教員】 館 直彦
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

臨床心理学は常に事例（case）を中心に展開してきた。この講義ではフロイトなどの先達の事例読み直すことを通して、事例をどのように理解し、どのように理論へ結びついていくかを検討することで、事例研究の方法を学びたい。

【授業の到達目標】

精神分析の代表的な事例について学び、事例研究の方法の基礎を習得すること

【授業内容・授業計画】

オリエンテーション	1
精神分析全体のアウトライン①	2
精神分析全体のアウトライン②	3
『ヒステリー研究』の症例 ①	4
	② 5
	③ 6
	④ 7
	⑤ 8
フロイトの精神分析理論	9
症例『ハンス』	10
症例『鼠男』	11
症例『シュレーバー』	12
症例『狼男』	13
まとめ ①	14
まとめ ②	15

【事前・事後学習の内容】

授業の中で指示する。

【評価方法】

出席とレポートによる評価

【教材】

『フロイト全集』岩波書店、『精神分析事典』岩波学術出版社、『フロイト著作集』人文書院
フロイト理解のためにフロイトの伝記等々その他

【受講生へのコメント】

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心理支援に関する理論と実践」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択A群科目」

【開講年度・学期】 2018年度・前期
【科目名】 臨床心理実習 I<心理実践実習>
【英語表記】 Practice of Clinical Psychology I
【科目ナンバリング】 HGCP57502
【担当教員】 三船 直子・後藤 佳代子
【授業形態】 実習
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

心理臨床実践の基礎的理論と技法を学ぶことを目的とする。

【授業の到達目標】

臨床実践の基礎を習得し、心理療法の中で展開する治療関係について理解する。

【授業内容・授業計画】

1. 学内において相談業務に従事する
2. 「ケースカンファレンス」「個人スーパーヴィジョン」を通じて、事例の見立て、および心理療法の経過の解釈を行い、クライアントの心理的理解を深める
3. 心理療法の理論的、実践的理解を目指す
4. 心理・教育相談室における相談業務のプロセス（インテーク（陪席）、事例担当、カンファレンス、報告書作成など）の実践を通して心理業務の実際を学ぶ

【事前・事後学習の内容】

授業・実習の中で指示する。

【評価方法】

レポートならびに出席点

【教材】

【受講生へのコメント】

心理臨床実践を行うということは訓練であると同時に、担当するケースに対する責任を担うことでもあります。指導教員との緊密な連携のもと心理臨床業務に従事していきます。詳細な内容、計画、基準については、1回目のオリエンテーション内にて通知します。

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心理実践実習」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】 2018年度・後期
【科目名】 臨床心理実習Ⅱ
【英語表記】 Practice of Clinical Psychology Ⅱ
【科目ナンバリング】 HGCP57503
【担当教員】 三船 直子・後藤 佳代子
【授業形態】 実習
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

心理臨床実践の基礎的理論と技法を学ぶことを目的とする。

【授業の到達目標】

臨床実践の基礎を習得し、心理療法の中で展開する治療関係について理解する。

【授業内容・授業計画】

1. 学内において相談業務に従事する
2. 「ケースカンファレンス」「個人スーパーヴィジョン」を通じて、事例の見立て、および心理療法の経過の解釈を行い、クライアントの心理的理解を深める
3. 心理療法の理論的、実践的理解を目指す
4. 心理・教育相談室における相談業務のプロセス（インテーク（陪席）、事例担当、カンファレンス、報告書作成など）の実践を通して心理業務の実際を学ぶ

【事前・事後学習の内容】

授業・実習の中で指示する。

【評価方法】

レポートならびに出席点

【教材】

【受講生へのコメント】

心理臨床実践を行うということは訓練であると同時に、担当するケースに対する責任を担うことでもあります。指導教員との緊密な連携のもと心理臨床業務に従事していきます。詳細な内容、計画、基準については、1回目のオリエンテーション内にて通知します。

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】 2018年度・前期
【科目名】 臨床心理面接特論 I <心理支援に関する理論と実践>
【英語表記】 Advanced Method of Psychotherapy I
【科目ナンバリング】 HGCPL6506
【担当教員】 長濱 輝代
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

臨床心理学的援助をおこなう際の基礎としての技術を習得することを目的とする。臨床心理面接場面で必要とされる実践的、具体的な内容について、その基盤となる姿勢や態度を含む諸技法を学ぶ。文献を通じて基礎理論の理解を深め、ビデオカメラ等の機材を利用した客観的視点の獲得を目的とする。

【授業の到達目標】

態度、話し方、姿勢、くせなど、自分自身が他者に発しているメッセージについて理解する。記録方法、内容分析を通じて、客観的・主観的な記録の区別、適切な表現方法を獲得する。ロールプレイやディスカッションから面接場面における自身の課題を想定できるようになる。

【授業内容・授業計画】

1. オリエンテーション (1回)
2. ビデオ記録—ディスカッション (7回)
 - ①発表—ビデオ撮影—ディスカッション—課題抽出：発信しているものへの着目
 - ②発表—ビデオ撮影—ディスカッション—課題抽出：発信しているものの分析
 - ③発表—ビデオ撮影—ディスカッション—課題抽出：抽出された課題への対応
 - ④発表—ビデオ撮影—ディスカッション—課題抽出：受信したものへの着目
 - ⑤発表—ビデオ撮影—ディスカッション—課題抽出：受信したものの分析
 - ⑥発表—ビデオ撮影—ディスカッション—課題抽出：抽出された課題への対応
 - ⑦発表—ビデオ撮影—ディスカッション—課題抽出：心理臨床実践における課題
3. ロールプレイ—ディスカッション (4回)
 - ①発表—ビデオ撮影—ディスカッション—課題抽出：記録方法
 - ②発表—ビデオ撮影—ディスカッション—課題抽出：記録内容
 - ③発表—ビデオ撮影—ディスカッション—課題抽出：課題への対応
 - ④発表—ビデオ撮影—ディスカッション—課題抽出：まとめ
4. 文献購読
 - ①文献購読：ロールプレイを通じて得られた課題に関する考察：文献理解
 - ②文献購読：ロールプレイを通じて得られた課題に関する考察：自身の課題
 - ③文献購読：ロールプレイを通じて得られた課題に関する考察：総合考察

【事前・事後学習の内容】

各講義内にて通知する。

【評価方法】

平常点（出欠、受講態度、講義ごとに設定された課題のプレゼンテーション）と各回提出のレポート（講義・実習を踏まえたうえで設定されたテーマ）により評価を行う。

【教材】

参考書籍 『新訂増補 精神療法の第一歩』成田義弘、金剛出版（2007）
『面接法』熊倉伸宏、新興医学出版社（2002）
その他、講義中に紹介する。適宜資料を配布する。

【受講生へのコメント】

詳細な内容、計画、基準については1回目のオリエンテーションにて通知します。

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心理支援に関する理論と実践」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】 2018年度・後期
【科目名】 臨床心理面接特論Ⅱ
【英語表記】 Advanced Method of Psychotherapy Ⅱ
【科目ナンバリング】 HGCPL6507
【担当教員】 三船 直子
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

心理臨床学的支援における面接技法の習得とその基本姿勢、実践技法と実践のための理論の習得を目的とする。

【授業の到達目標】

面接理論の習得と事例をもちいた実践的で柔軟な発想の涵養。面接の基本姿勢についての実践的理論について学生は課された課題のレジюмеを作成、発表し、テーマの拡充のためのディスカッションを行う。以下の講義予定は授業の進行により、変更されることがある。

【授業内容・授業計画】

心理臨床場面におけるノンバーバルな交流の実際とその臨床的な意義について、心理臨床支援におけるイメージの重要性とその働き、イメージ体験と事例などをまじえて考察していく。

オリエンテーション	1
心理療法の基礎 ① 相談者の姿勢	2
② 来談者への理解 自分をとおして知っていく	3
③ 来談者の孤独 / 面接者の孤独	4
④ 来談者のニーズ、希望、変化と不変	5
⑤ 関係形成のプロセス	6
⑥ 事例検討	
イメージについての理解 一言葉に出来ないことー を感じてみる	7
心理療法のなかのイメージ ① イメージの働きとその技法	8
② 夢	9
③ 描画	10
④ アクティブイマジネーション	11
⑤ イメージの身体	12
⑦ イメージを用いた事例	13
⑧ 事例検討	14
まとめ	15

【評価方法】

出席と課題およびレポートによる評価

【教材】

『イメージの心理学』河合隼雄、青土社、『無意識との対話』老松克博、参考資料など配布

【受講生へのコメント】

なお本科目は以下の科目に対応するものである。
・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】 2018年度・前期
【科目名】 臨床心理基礎実習 I
【英語表記】 Basic Practice of Clinical Psychology I
【科目ナンバリング】 HGCPS7504
【担当教員】 篠田 美紀・長濱 輝代
【授業形態】 実習
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

心理臨床実践による「ケースカンファレンス」を通して、講義で取得した臨床心理学的心理援助の知識を、実際の心理臨床実践に応用する実践力を養成する。

【授業の到達目標】

心理面接やプレイセラピーの実際から、事例の理解と見立て、心理相談のプロセスについての臨床心理学的視点を取得し、心理援助に関する実践力を獲得する。

【授業内容・授業計画】

1. 心理臨床実践を学ぶ。
2. 「ケースカンファレンス」を通じて、事例の見立て、および心理療法の経過の解釈、クライアントの心理的理解を深める。
3. 心理療法の理論的、実際的理解を目指す。
4. 心理相談業務のプロセス（インテーク（陪席）、事例担当、心理アセスメント、カンファレンス、報告書作成など）の実際について学ぶ。

【事前・事後学習の内容】

毎回の 実習のなかで通知する。

【評価方法】

実習出欠と実習態度に評価する。

【教材】

【受講生へのコメント】

詳細な内容、計画、基準については、1 回目のオリエンテーション内にて通知します。

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】 2018年度・後期
【科目名】 臨床心理基礎実習Ⅱ
【英語表記】 Basic Practice of Clinical Psychology Ⅱ
【科目ナンバリング】 HGCPS7505
【担当教員】 篠田 美紀・長濱 輝代
【授業形態】 実習
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

心理臨床実践による「ケースカンファレンス」を通して、講義で取得した臨床心理学的心理援助の知識を、実際の心理臨床実践に応用する実践力を養成する。

【授業の到達目標】

心理面接やプレイセラピーの実際から、事例の理解と見立て、心理相談のプロセスについての臨床心理学的視点を取得し、心理援助に関する実践力を獲得する。

【授業内容・授業計画】

1. 心理臨床実践を学ぶ。
2. 「ケースカンファレンス」を通じて、事例の見立て、および心理療法の経過の解釈、クライアントの心理的理解を深める。
3. 心理療法の理論的、実際的理解を目指す。
4. 心理相談業務のプロセス（インテーク（陪席）、事例担当、心理アセスメント、カンファレンス、報告書作成など）の実際について学ぶ。

【事前・事後学習の内容】

毎回の 実習のなかで通知する。

【評価方法】

実習出欠と実習態度に評価する。

【教材】

【受講生へのコメント】

詳細な内容、計画、基準については、1回目のオリエンテーション内にて通知します。

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】 2018年度・前期
【科目名】 力動的 psychotherapy 特論<保健医療分野に関する理論と支援の展開>
【英語表記】 Advanced Studies of Dynamic Psychotherapy
【科目ナンバリング】 HGCPL6508
【担当教員】 館 直彦
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可 (平成28年度以降入学生対象)

【科目の主題】

精神療法について、人間を全体として理解しようとする力動精神医学に基づき、精神療法の基本概念について事例を挙げつつ、論じる。

【授業の到達目標】

精神療法の基礎的な知識の獲得と力動的 psychotherapy についての考え方を身につけること

【授業内容・授業計画】

講義と演習を交えて講義を行っていく。学生は課された課題についてレジュメを作成し、発表することを求められる。以下の講義予定は授業の進展により、変更することもある。

オリエンテーション	1
力動精神医学とは ①	2
②	3
無意識の発見 ①	4
②	5
症状・夢・失錯行為の意味	9
精神分析の確立 前期	10
中期	11
後期	12
転移の心理学	13
自我心理学と対象関係論	14
まとめ	15

【事前・事後学習の内容】

講義の中で指示する。

【評価方法】

出席とレポートによる評価

【教材】

館直彦、『ウィニコットを学ぶ 対話することと創造すること』, 岩崎学術出版社, 2013
館直彦、『現代対象関係論の展開 ウィニコットからボラスへ』, 岩崎学術出版社, 2012
館直彦訳, 『終わりのない質問』, 誠信書房, 2011, 館直彦監訳, 増尾徳行訳, 『臨床家のための精神分析入門 今日の理論と実践』, 岩崎学術出版社, 2010

【受講生へのコメント】

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「保健医療分野に関する理論と支援の展開」

【開講年度・学期】 2018年度・後期
【科目名】 周産期家族臨床学特論<家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践>
【英語表記】 Advanced Perinatal Clinical Psychology
【科目ナンバリング】 HGCPL6509
【担当教員】 長濱 輝代
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可 (平成28年度以降入学生対象)

【科目の主題】

本講義では、周産期のメンタルヘルスの心理的課題についてテキストを用いて講義・ディスカッションを行う。また、周産期医療現場における心理学的課題や倫理的問題について研究報告や文献を通じて学ぶ。

【授業の到達目標】

周産期の親子や家族の心理学的理解や心理学的援助について理解を深め、周産期における心理士の役割や臨床現場での事例に応じた支援方法を考えることができる。

【授業内容・授業計画】

1. オリエンテーション
2. 周産期における妊産婦と家族の心理とその課題
 - (1) 妊娠・出産・新生児の能力とそれに伴う心理的課題
 - (2) 家族の成立とそれに伴う心理的課題
 - (3) 絆の形成とそれに伴う心理的課題
 - (4) 早産児と家族の心理的課題
 - (5) 先天異常をもつ子どもと家族の心理的課題
3. 現代の周産期における臨床心理学的課題
 - (1) 出生前診断と臨床心理学的課題
 - (2) 生殖補助医療と臨床心理学的課題
 - (3) 生命倫理と臨床心理学的課題
4. 周産期医療における臨床心理学的課題と倫理的課題
 - (1) 周産期医療における臨床心理的アプローチの実際①母親の心理
 - (2) 周産期医療における臨床心理的アプローチの実際②家族の心理
 - (3) 周産期医療における臨床心理的アプローチの実際③心理士の役割
 - (4) 周産期医療における臨床心理的アプローチの実際④事例検討
 - (5) 周産期医療における臨床心理的アプローチの実際⑤事例検討
5. 周産期医療における心理臨床の実際

【事前・事後学習の内容】

各講義内にて通知する。

【評価方法】

平常点と期末レポートにより評価を行う。

平常点は出欠、受講態度、講義ごとに設定された課題のプレゼンテーションから評価を行う。期末レポートは講義を踏まえたうえでテーマを設定したものを提出とする。

【教材】

教科書：『親と子のきずなはどうつくられるか』M.H.クラウス、J.H.ケネル、P.H.クラウス著/竹内徹訳、医学書院（2001）
その他、講義中に紹介する。適宜資料を配布する。

【受講生へのコメント】

詳細な内容、計画、基準については1回目のオリエンテーションにて通知します。

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践」

【開講年度・学期】 2018年度・後期
【科目名】 高齢者心理学特論〈福祉分野に関する理論と支援の展開〉
【英語表記】 Advanced Studies on Geropsychology
【科目ナンバリング】 HGCP6512
【担当教員】 篠田 美紀
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

本講義では、高齢期を心理的な生涯発達の最終段階と位置づけ、その重要性と意義について理解を深めるとともに、各種アセスメント技法による高齢期の心理学的理解と回想法を中心とする臨床心理学的援助技術の実践に習熟することを目的とする。

【授業の到達目標】

高齢期に関する臨床心理学的理論を取得し、高齢者を対象とした臨床心理学的心理アセスメント、ならびに、心理臨床実践に対応できる力を獲得する。

【授業内容・授業計画】

1. 高齢者心理学の歴史
2. 生涯発達理論における高齢者の位置づけと課題 (1) 精神分析的理論における高齢期
3. 生涯発達理論における高齢者の位置づけと課題 (2) 生涯発達理論における高齢期
4. 記憶機能と加齢
5. 高齢期の知能研究
6. 高齢期の人格研究
7. 高齢期の心理的問題
8. 高齢期の臨床心理学的アセスメント法—認知機能のアセスメント—
9. 高齢期の臨床心理学的アセスメント法—人格のアセスメント—
10. 高齢期の臨床心理学的アセスメント法—精神症状のアセスメント—
11. 高齢期の心理的援助 1—高齢者の心理療法—
12. 高齢期の心理的援助 2—回想法—
13. 高齢期の心理的援助 3—事例検討 1—
14. 高齢期の心理的援助 4—事例検討 2—
15. 高齢期の心理援助—総括—

【事前・事後学習の内容】

各講義内で通知する。

【評価方法】

文献講読発表とレポート提出。数回の実習参加

【教材】

下仲順子『高齢期の心理と臨床心理学』培風館
野村豊子『回想法とライフレビュー』中央法規出版

【受講生へのコメント】

講義とともに数回の見学・実習を予定しています。

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「福祉分野に関する理論と支援の展開」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択D群科目」

【開講年度・学期】 2018年度・前期
【科目名】 臨床心理査定演習 I <心理的アセスメントに関する理論と実践>
【英語表記】 Seminar on Psychological Assessment of Clinical Psychology
【科目ナンバリング】 HGPCS7506
【担当教員】 篠田 美紀
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

本演習では、臨床心理査定技法のうち、心理臨床の実際で重要な位置を占める心理査定技法とその臨床実践について習熟する。

【授業の到達目標】

各種心理差的技法に習熟し、臨床心理学的援助法の基本的な姿勢を獲得する。

【授業内容・授業計画】

1. 臨床心理査定技法 1—心理面接による心理査定—
2. 臨床心理査定技法 2—心理テストによる心理査定—
3. 知能の査定 1
4. 知能の査定 2
5. 性格の査定 1
6. 性格の査定 2
7. 認知の査定 1
8. 認知の査定 2
9. 神経心理学的査定 1
10. 神経心理学的査定 2
11. 投映法による査定 1
12. 投映法による査定 2
13. 総括 1 : 臨床心理査定の実例—事例研究 1—
14. 総括 2 : 臨床心理査定の実例—事例研究 2—
15. 総括 3 : 臨床心理査定の実例—事例研究 3—

【事前・事後学習の内容】

講義内で通知する

【評価方法】

演習レポート

【教材】

テキスト：臨床心理学全集 第2巻 臨床心理査定学・ 第6巻 臨床心理査定技法 1・
第7巻 臨床心理査定技法 2 誠信書房

【受講生へのコメント】

時間的な制限がありますので、教材による自学・自習を確実に進めてください。

なお本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心理的アセスメントに関する理論と実践」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】 2018 年度・後期
【科目名】 臨床心理査定演習Ⅱ
【英語表記】 Seminar on Psychological Assessment of Clinical Psychology
【科目ナンバリング】
【担当教員】 弘田 洋二
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

ロールシャッハ・テストの実施法、集計法、解釈法と所見作成に必要な反応理解

【授業の到達目標】

ロールシャッハ・テスト反応のスコアリングと数量的解析、系列構造分析によるアプローチの実際について知り、臨床所見の書き方についてその基礎を身につける。

【授業内容・授業計画】

前半で、一事例のスコアリング自習をしながら、各スコアのもつ意味を伝える。数量的な分析とその解釈仮説について学び、人格特徴の把握を試みる。後半では、人格の水準評価のうえで注目される理論について学ぶ。

- # 1 オリエンテーション：ロールシャッハ・テスト研究の歴史
- # 2 ロールシャッハ・テストの実施法と投影法のなかでの位置づけ
- # 3 スコアリング実習①（Ⅰ－Ⅱカード）
- # 4 スコアリング実習②（Ⅲ－Ⅳカード）
- # 5 スコアリング実習③（Ⅴ－Ⅶカード）
- # 6 スコアリング実習④（Ⅷ－Ⅹカード）
- # 7 スコアと解釈仮説：Rorschach, H. の知見
- # 8 Klopfer 法と解釈仮説
- # 9 解釈仮説への重要な疑問
- # 10 人格特徴と病態水準：類型論と水準理解
- # 11 病理的反応の構造①
- # 12 病理的反応の構造②
- # 13 病理的反応に関する指標
- # 14 人格障害と発達障害
- # 15 まとめとふりかえり

【事前・事後学習の内容】 授業において事前・事後学習の課題を指示する。

【評価方法】 平常点と期末レポートを総合して評価。

【教材】 辻悟『ロールシャッハ検査法－形式・構造解釈に基づく解釈の理論と実際』金子書房

【受講生へのコメント】 実習（#3－#6）において予習としてのレポート作成が不可欠である。

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。
・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】 2018年度・後期集中
【科目名】 障がい者（児）心理学特論〈福祉分野に関する理論と支援の展開〉
【英語表記】 Psychology of Disability
【科目ナンバリング】 HGCPL6513
【担当教員】 篠田 美紀・鈴木 千枝子（非常勤講師）
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

本特論では精神障がい者の心理的問題と心理的援助に焦点を絞り、講義する。特に、精神科病院における臨床事例にふれながら、クライアントの呈する病理とその心理的理解、心理療法による心理的援助について、理論的・実践的な知識を習得する。

【授業の到達目標】

精神障がい者の心理的援助に関する理論的・実践的な基礎知識を取得する。

【授業内容・授業計画】

1. 精神障がい者について (1)
2. 精神障がい者について (2)
3. 精神障がい者について (3)
4. 精神病理と心理的理解 (1)
5. 精神病理と心理的理解 (2)
6. 精神病理と心理的理解 (3)
7. 心理療法など心理的援助とリハビリテーション (1)
8. 心理療法など心理的援助とリハビリテーション (2)
9. 心理療法など心理的援助とリハビリテーション (3)
10. 心理療法など心理的援助とリハビリテーション (4)
11. 事例研究 (1)
12. 事例研究 (2)
13. 事例研究 (3)
14. 事例研究 (4)
15. 事例研究 (5)

【事前・事後学習の内容】

講義内で通知する。

【評価方法】

平常点：出席点
レポート：講義を踏まえたテーマでのレポート提出

【教材】

関連資料は講義の際に配布

【受講生へのコメント】

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「福祉分野に関する理論と支援の展開」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択D群科目」

【開講年度・学期】 2018年度・後期集中
【科目名】 スクールカウンセリング特論<教育分野に関する理論と支援の展開>
【英語表記】 School Counseling
【科目ナンバリング】 HGCP16516
【担当教員】 篠田 美紀・金岡 洋子（非常勤講師）
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

スクールカウンセリングの心理臨床実践をめぐって、心理臨床の構造と設定に関するコンサルティングをはじめとして、教師、保護者、児童・生徒とのカウンセリング実践およびフォローアップに至るまでの全過程に関する理論と技法の習熟を目的として講義を行う。具体的な事例を提示しつつ、臨床現場における心理療法家の基本的態度と基礎知識の理解を深める。

【授業の到達目標】

スクールカウンセリングに関する基礎的知識を取得する。

【授業内容・授業計画】

1. オリエンテーション
2. 学校現場における心理臨床実践の構造と設定 1
3. 学校現場における心理臨床実践の構造と設定 2
4. 学校現場における心理臨床実践の構造と設定 3
5. 児童・生徒へのカウンセリング実践 1
6. 児童・生徒へのカウンセリング実践 2
7. 児童・生徒へのカウンセリング実践 3
8. 児童・生徒へのカウンセリング実践 4
9. 保護者へのカウンセリング実践 1
10. 保護者へのカウンセリング実践 2
11. 保護者へのカウンセリング実践 3
12. 保護者へのカウンセリング実践 4
13. 教師へのコンサルテーション 1
14. 教師へのコンサルテーション 2
15. 討論とまとめ

【事前・事後学習の内容】

講義内で通知する

【評価方法】

平常点：出席点

レポート：講義を踏まえたうえでのレポート提出

【教材】

資料は授業で配布する

【受講生へのコメント】

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「教育分野に関する理論と支援の展開」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択E群科目」

【開講年度・学期】 2018 年度・前期
【科目名】 心理療法学特論
【英語表記】 Advanced Studies on Psychotherapy
【科目ナンバリング】
【担当教員】 弘田 洋二
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

心理療法のさまざまな技法には、それぞれ固有のこころの成り立ちとはたらきについての理論が内在している。技法、治療者－患者関係、心理診断に関して提唱された重要な概念および言葉をめぐってあった議論を参照して「こころのスーパービジョン」に役立てる。

【授業の到達目標】

臨床実践上重要な概念、言葉についての認識を深めることによって、自らの臨床実践を省みる観点をもつこと。

【授業内容・授業計画】

心理療法の歴史の中で重要な位置づけをもつ概念について取り上げながら、講読や解説を経て討論する。

- # 1 オリエンテーション：出会いと関係の構造化
- # 2 アセスメント、診断（予備）面接
- # 3 治療契約、治療同盟：出会いの中での作業
- # 4 自由連想：話すこと、遊ぶこと
- # 5 禁欲規則、アクティングアウト
- # 6 受け身性・中立性
- # 7 共感、共感的態度
- # 8 明確化、同意的確認、直面化
- # 9 防衛解釈、転移解釈、抵抗解釈
- # 10 エンナクトメント、自己開示
- # 11 欲動、対象、欲望
- # 12 自己愛の発達と病理
- # 13 破壊性と倒錯
- # 14 アイデンティティ
- # 15 まとめとふりかえり

【事前・事後学習の内容】 授業において事前・事後学習の課題を指示する。

【評価方法】 平常点（学習貢献）と随時求めるレポート提出による

【教材】 各授業回において提示する

【受講生へのコメント】 質問と討論参加による学習の深化への貢献を求める

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択E群科目」

【開講年度・学期】 2019年度・前期集中（隔年開講 2018年度休講）
【科目名】 精神医学特論〈保険医療分野に関する理論と支援の展開〉
【英語表記】 Psychiatric Psychotherapy
【科目ナンバリング】 HGCPL6518
【担当教員】 三船 直子・平井 孝男（非常勤講師）
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

本講義では、精神医学における基礎知識の修得と治療の実際の理解をはかる。また治療における治療者・患者関係に頻発する転移・逆転移などの現象を取り上げ、心理療法事例の分析を通して、治療経過における二者関係の重要性について十分な理解を得られるような講義を行う。あわせて関連文献の購読を行い、理解を深めていく。

【授業の到達目標】

精神分析学の理論と技法について基礎的知識を習得する

【授業内容・授業計画】

1. オリエンテーション
2. 精神現象をどう理解するか
3. 精神医学の基礎①②
4. 転移と逆転移
5. 夢分析・・・事例研究①
6. 事例研究②③④⑤⑥⑦
7. 精神分析と文化（文学など）
8. まとめ

【事前・事後学習の内容】

講義内で通知する。

【評価方法】

平常点：出席点

レポート：講義を踏まえたテーマによるレポート提出

【教材】

【受講生へのコメント】

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「保険医療分野に関する理論と支援の展開」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択D群科目」

【開講年度・学期】 2018年度・前期or後期 集中
【科目名】 犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）
【英語表記】 Advanced Forensic Psychology
【科目ナンバリング】
【担当教員】 篠田美紀・緒方康介（非常勤講師）
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成30年度以降入学者対象）

【科目の主題】

司法・犯罪分野における専門実務の基礎知識を修得するために、①家庭裁判所、少年鑑別所、警察、児童相談所など、心理専門職が犯罪心理学に関連するどのような実務に従事しているのかを概観し、②犯罪原因論、犯罪類型、資質鑑別や心理診断（心理査定）、犯罪被害とPTSDなど、犯罪心理学の学術理論や応用知見を理解し、③少年非行、児童虐待、犯罪被害など、犯罪心理学関連分野での臨床実践の実際を知る。

【授業の到達目標】

司法・犯罪分野における心理専門職の実務について概略を説明できるようになり、将来の職業選択に関係付けて考えられるようになる。犯罪心理学の各種理論や知見について概説できるようになり、臨床実践への応用可能性などを批判的に考察できるようになる。犯罪心理学に関連する専門実務を知り、司法・犯罪臨床の限界と課題を指摘できるようになる。

【授業内容・授業計画】

- | | |
|-------------------|-----------------------------|
| 1. 犯罪心理学の背景と位置付け | : 犯罪学, 法科学, 精神医学 |
| 2. 犯罪現象の基礎知識 | : 定義, 構成要件, 犯罪統計, 法的根拠 |
| 3. 司法・犯罪分野の心理専門職 | : 公的機関, 少数精鋭, 資格要件 |
| 4. 裁判所と警察庁の心理実践 | : 家庭裁判所調査官, 少年補導職員, 犯罪鑑識官 |
| 5. 法務省と厚生労働省の心理実践 | : 少年鑑別所技官, 保護観察官, 児童心理司 |
| 6. 犯罪原因論 | : 犯罪生物学, 犯罪社会学, 犯罪精神医学 |
| 7. 犯罪類型論 | : 殺人, 放火, 窃盗, 性犯罪 |
| 8. 非行少年の心理特性 | : 知能, パーソナリティ, 攻撃性, 発達障害 |
| 9. 虐待被害児の心理特性 | : 知能, パーソナリティ, トラウマ |
| 10. 犯罪被害者の心理特性 | : PTSD, 解離, 死別反応 |
| 11. 非行臨床の法的根拠 | : 少年法, 児童福祉法 |
| 12. 非行臨床の実際 | : 触法少年, 虞犯少年, 性非行少年 |
| 13. 虐待臨床の法的根拠 | : 児童福祉法, 児童虐待防止法 |
| 14. 虐待臨床の実際 | : 身体的虐待, 性的虐待, 心理的虐待, ネグレクト |
| 15. 犯罪心理学の限界と課題 | : 行動科学, 方法論, エビデンス, (筆記試験) |

【事前・事後学習の内容】 犯罪心理学の教科書を読んだことがあればその書籍、なければ臨床心理学や社会心理学など、過去に学習したテキストに記載されていた犯罪心理学関連箇所を再読した上で授業に臨んでください。

【評価方法】 出席点は単位取得に係る資格の有無を判断する前提条件としてのみ使用する。
講義への積極的参加（30%）：筆記試験（70%）

【教材】 †参考文献† 笠井達夫・水田恵三・桐生正幸（編）（2012）．犯罪に挑む心理学—現場が語る最前線— Ver.2 北大路書房 ¥2,200円

【受講生へのコメント】

本講義は、犯罪という不快な現象を取り扱い、不快な議題・資料に触れる可能性があるため、各自の進路や適性を十分考慮して受講するか否かを決定してください。特に、暴力犯罪や性犯罪についても取り扱いますので、了解の上、参加・受講してください。

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択C群科目」

【開講年度・学期】 2018年度前期
【科目名】 産業・労働心理学特論<産業・労働分野に関する理論と支援の展開>
【英語表記】 Psychology in the Fields of Industry and Working
【科目ナンバリング】
【担当教員】 弘田洋二
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成30年度以降入学者対象）

【科目の主題】

産業構造の変化によって、人々の労働環境の多様化も著しい。誰もがメンタルヘルスの失調に陥る可能性があるという認識が形成されようとしており、メンタルヘルスマネジメントに関わる諸事象について知る。

【授業の到達目標】

企業や組織においてなされるメンタルヘルスマネジメントの現状を知り、企業のカウンセラーとして機能するスキルについて認識を深める。

【授業内容・授業計画】

前半では組織におけるストレス、働く人々のおかれている心理的な状況について論じる。後半ではカウンセリングによるアプローチの特徴を論じる。

- # 1 オリエンテーション：産業、就業構造の変化とストレス
- 2 オリエンテーション：ストレスについて
- 3 メンタルヘルスと企業の責任①：過労と労災
- 4 メンタルヘルスと企業の責任②：自殺と労災
- 5 ストレス反応と適応障害
- 6 心身症
- 7 うつ病とその病像
- 8 いわゆる「新型うつ」について
- 9 職場における対人関係
- 10 ハラスメントとジェンダー
- 11 パワーハラスメント
- 12 企業とカウンセラー
- 13 EAPとその活動
- 14 職場復帰プログラム
- 15 企業・組織で「はたらく」ということ

【事前・事後学習の内容】 予習は特に求めないが、得た情報について考えること

【評価方法】 授業中に適宜レポートを課し、あわせて最終レポートにより評価する。

【教材】 指定しない。適宜、関連領域の実践家をゲストとして招聘する。

【受講生へのコメント】 特になし

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「産業・労働分野に関する理論と支援の展開」

【開講年度・学期】2018年度後期
【科目名】健康心理学特論<心の健康教育に関する理論と支援の展開>
【英語表記】Psychological Education for the Insurance of Mental Health
【科目ナンバリング】
【担当教員】弘田洋二
【授業形態】講義
【単位数】2単位
【当学科・コース学生以外の受講】不可（平成30年度以降入学者対象）

【科目の主題】

子どもの虐待および不適切療育の防止、子どもの発達にあった学習の保障、いじめやハラスメントの防止に向けた取り組みが社会的に必要だと言われている。「こころの健康」に関連する教育、啓蒙活動について考える。

【授業の到達目標】

専門的機関でなされる心理治療的な対応以外に、家庭、学校、職場、地域における心理教育、生活支援によって予防的な取り組みの重要性を認識し、各現場での活動の特徴について知る。

【授業内容・授業計画】

まず、こころの発生、発達について理解する。ライフサイクルに応じて必要となる場への順応、適応に困難を生じる力動、周囲の理解や日常的な関係の営みの要点を論じる。

- # 1 オリエンテーション：満たされるべきニーズについての社会的合意
- 2 乳児期のニーズと家庭環境
- 3 幼児期のニーズとしつけ
- 4 集団教育とおとな
- 5 個別ニーズに応じる学習保障
- 6 性の発達と主体性の尊重
- 7 不登校の増加とオルタナティブについて
- 8 思春期・青年期と社会：理想形成について
- 9 親ガイダンス
- 10 世代間伝達について
- 11 「キレル」ということ
- 12 「よりそい」と支援、教育の関係
- 13 機関臨床と地域臨床
- 14 社会関係表象とこころ
- 15 専門性と社会活動

【事前・事後学習の内容】授業において事前・事後学習の課題を指示する。

【評価方法】授業中に適宜レポートを課し、あわせて最終レポートにより評価する。

【教材】特に指定しない。参考図書、関係活動の紹介を適宜する。

【受講生へのコメント】関連領域でのボランティア（有償・無償）経験をもつことが望ましい。

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心の健康教育に関する理論と支援の展開」

【開講年度・学期】 2018年度・通年集中
【科目名】 心理実践実習
【英語表記】 Practice of Clinical Psychology
【科目ナンバリング】
【担当教員】 三船直子・篠田美紀・長濱輝代・後藤佳代子・羽下明日飛・落水一至
【授業形態】 実習
【単位数】 10単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成30年度以降入学者対象）

【科目の主題】

これまでに習得した心理臨床実践の基礎的理論の理解のもとに、心理臨床支援の実習生として、心理査定、心理面接、地域支援等々の実践に取り組む

【授業の到達目標】

臨床実践の各領域について理解を深め、の基礎を習得し、実習指導を受け、臨床実践への姿勢、技能を習得する

【授業内容・授業計画】

1. 外部実習、学内臨床心理実習において相談業務に従事する
2. 「ケースカンファレンス」「個人スーパーヴィジョン」「事前・事後実習指導」を通して、事例の見立て、および心理療法の経過の解釈、心理支援を必要とする人への理解とニーズについて把握し、支援計画を作成する
3. 心理療法の理論的、実践的理解を目指す
4. 心理支援を要する人へのチームアプローチを習得する
5. 心理支援・相談業務のプロセス（インテーク（陪席）、事例担当、カンファレンス、報告書作成など）心理業務を全般の理解

【事前・事後学習の内容】

授業・実習の中で指示する。

【評価方法】

レポートならびに出席点

【教材】

実践内容に即して実習の中で提供する

【受講生へのコメント】

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。
・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心理実践実習」

【開講年度・学期】 2018年度・前期（隔年開講）
【科目名】 人間関係学特論〈家族関係・集団・地域社会における
心理支援に関する理論と実践〉
【英語表記】 Advanced Studies of Human Relationship Psychology
【科目ナンバリング】 HGCPL6502
【担当教員】 三船 直子
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成29年度以前入学者対象）

【科目の主題】

「人間関係」の観点からこころの発達と心理臨床について論じ、考察する。ライフサイクルにおける環境と人間関係に関する心理臨床支援の実際を、事例を通して考察していく。

【授業の到達目標】

精神疾患について、人間関係の観点から考察し、支援について考える力を養う。
合わせて心理支援の倫理についても人間関係の視点から実践事例を用いて考察する

【授業内容・授業計画】

講義と演習を交えて進めていく。学生は課された課題についてレジュメを作成し発表し、ディスカッションを行う。以下の講義予定は授業の進行により、変更されることがある。

オリエンテーション	1
人間関係のゆりかご	2
環境としての母性と対象としての母性 家族の問題	3
心理臨床事例を人間関係から考察する	4
① 家族	5
② 学校	6
③ 職場	7
④ 地域	8
心理臨床実践における人間関係 倫理① 役立つとは	9
② 支援するとは	10
③ 来談者の立場	11
④ 支援者の立場	12
⑤ 困難事例	13
⑥ 協働する中で	14
心理臨床実践における二者関係と倫理のまとめ	15

【事前・事後学習の内容】

各自、課題の発表とその後のまとめの課題が課せられる。

【評価方法】

出席と課題およびレポートによる評価

【教材】

講義の中で指定する。また適宜、必要資料、課題を配布

【受講生へのコメント】

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践」

・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択C群科目」

【開講年度・学期】 2018年度・前期集中（隔年開講 2018年度開講）
【科目名】 カウンセリング特論〈心理支援に関する理論と実践〉
【英語表記】 Studies of Advanced Counseling
【科目ナンバリング】 HGCPL6514
【担当教員】 三船 直子・大塚 義孝（非常勤講師）・氏原 寛（非常勤講師）
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成 29 年度以前入学者対象）

【科目の主題】

心理臨床実践にかかわる諸理論の技法と習熟を目的として講義を行う。心理臨床の主要な基礎理論、すなわち、精神力動的理論、行動論的理論、実存的—人間学的理論に関して、臨床心理学の発展にそいながら、人間行動理解のためのそれぞれの学派の理論的基礎概念を学ぶ。あわせて各理論の実践技法の実際について、文献による事例検討等を行う。

【授業の到達目標】

心理臨床の主要な基礎理論と技法について、基礎知識を取得する。

【授業内容・授業計画】

1. オリエンテーション
2. 対人援助学の発展と系譜
3. 心理臨床とカウンセリング
4. カウンセリングの理論
5. カウンセリングの技法
6. カウンセリングの有効性と限界
7. カウンセリングとアセスメント
8. 事例分析

【事前・事後学習の内容】

講義内で通知する。

【評価方法】

平常点：出席点
レポート：講義を踏まえたテーマでのレポート提出

【教材】

テキスト『臨床心理学原論』、関連資料は講義の際に配布

【受講生へのコメント】

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心理支援に関する理論と実践」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「必修科目」

【開講年度・学期】 2018年度・後期集中（隔年開講 2018年度開講）
【科目名】 心身医学特論〈保健医療分野に関する理論と支援の展開〉
【英語表記】 Advanced Psychosomatic Medicine
【科目ナンバリング】 HGCPL6519
【担当教員】 三船 直子・黒川 順夫（非常勤講師）
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成 29 年度以前入学者対象）

【科目の主題】

精神現象を理解し対人関係援助へと導く基本概念として、心身相関の理解は必須のものといえる。本講義では、心理臨床の基礎となる心と身体の関係をどのように理解し、心理的苦悩の本質を理解するかについて、治療理論と治療技法を学ぶ。あわせて、心身症などの事例分析から、心身相関の理解にもとづいた全人的治療のあり方を習得する。

【授業の到達目標】

心身相関について理解し、心療内科での心理臨床実践についての基礎的知識を得る。

【授業内容・授業計画】

1. オリエンテーション
2. 心と身体の間関係（心身二元論と心身一元論の系譜）
3. 心身症概念への臨床心理的系譜
4. コミュニケーションにおける身体言語
5. 疾病のもつ心理的意味
6. 心身症発症の機序
7. 心身相関の心理臨床
8. 事例分析

【事前・事後学習の内容】

講義内で通知する。

【評価方法】

平常点：出席点 レポート：講義を踏まえたテーマによるレポート提出

【教材】

資料は授業で配布する

【受講生へのコメント】

なお、本科目は以下の科目に対応するものである。

- ・「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「保健医療分野に関する理論と支援の展開」
- ・「臨床心理士」受験資格の取得に必要な「選択D群科目」